

ふくる通信

The Fukushima tourist information center communication

小特集

花見山とともに歩んだ人生

～花見山公園二代目園主・故・阿部一郎氏の生涯～

発行／福島市観光案内所
〒960-8031 福島県福島市栄町1-1
TEL 024-531-6428
FAX 024-531-8165
URL <http://www.f-kankou.jp>

E-mail kankou@f-kankou.jp



昨年の11月に協議会の会長に就任された菅野さん

「花見山観光振興協議会」は地域住民や市民団体等で組織され、花見山開花シーズン中における観光客の受入活動をはじめ、花木畑に対しての下草刈りや植物の除草などを通して、花見山周辺の美しい景観を維持していくための取り組みなども進めています。菅野廣男さんが協議会の活動に携わり始めたのは、花見山公園の地元周辺町内会の会長に就任した平成十九年で、花見山周辺の混雑がピークを迎えようとしている時でした。その後七年間の活動を経て、この度、協議会の会長就任にあたり、あらためて花見山公園への思いを伺いました。

「花見山公園は、阿部一郎さんとその父である伊勢次郎さんが一蹴一蹴手をかけて開墾し、長年かけて大事に育てあげてきた花木畑です。その苦労は言葉では言い表すことができないと思います。阿部さんは、花は人々に「潤い・希望・癒しを与えてくれる」と機会あるごとにお話されておりました。当時の苦労を乗り越え、自分の手がけた花々が無心に咲き誇る姿への率直な思いであったと共感します。さらに、花見山公園を無償で一般公開されたのは、阿部一郎さんと伊勢次郎さんの温かい人間性によるもの。心から敬意を表します。」

また、これからの協議会の活動については、「花見山公園とその周辺の景観を維持していくためには、地元花木農家の皆さんの安定した生活基盤を築いていくことが重要です。本協議会としては、経済効果も考慮しながらバックアップに努めていきたいと考えています。また、行政と一体となり大勢の皆さんの共感を得ながら、自然豊かな、里山の原風景維持に取り組み、阿部一郎さんの想いを後世に伝えるべく、桃源郷と称される景観保全に努めていきたいと考えています。」との意気込みを述べていただきました。

ふくしま この人・魅力人

地域で活躍する人にスポットをあて、福島市の魅力を発信していくコーナーです。今回は、花見山観光振興協議会の会長に就任された菅野廣男(かんのひろお)さんにお話を伺いました。

日本を代表する写真家、故・秋山庄太郎氏が毎年訪れた花見山公園。美しい花々の競演に心を奪われます。



路線バスとウォーキングで市内の桜の名所を巡りましょう!

街なかサクラめぐり

街なかの桜の名所を約3時間半で巡ります。ヘレン・ケラーが福島市へ訪れた際の写真を特別にご覧いただきます

●出発日 平成26年4月3日(木)～16日(水)

※土・日曜日は除きます。

●旅行代金 お一人様 1,600円

※別途、往復路線バス代200円をご負担いただきます。なお、運賃の見直しにより、バス運賃が変更となる場合がございます。

●行程 (……徒歩、===路線バス、♀バス停)

※全行程約2kmの道のりを歩きます。

福島駅東口・古閑裕而モニュメント前(12:45集合)
福島駅東口(13:00出発)===♀(福島テレビ)……信夫山の桜(代表的な桜の名所のひとつ)……グランマ・ミー(コーヒー、ケーキセットをお召し上がりください)……桜の聖母短期大学資料室(ヘレン・ケラー来福時の写真をご覧いただきます)……福島地方裁判所の桜(三春滝桜の孫桜といわれている)……♀(市役所前)===福島駅東口(16:30到着)

※ボランティアガイド「ふくしま案内人」がご案内いたします。

※詳しい申込み方法等は(社)福島市観光コンベンション協会公式ホームページ「こらんしょふくしま」でご確認願います。

この他にも楽しいツアー企画をご用意しております。

ぜひ、アクセスしてみてください。

問い合わせ：(社)福島市観光コンベンション協会 ☎024-531-6432



■問い合わせ／花見山観光振興協議会事務局(渡利支所内)
☎024-523-5011



花見山ウォーキングトレイルでの草刈り作業

間もなく春本番。協議会の皆さんの活動をみんなで応援していきたいと思っています。

ふくしま

デスティネーション

キャンペーンを開催!

デスティネーションキャンペーン(以下、DC)とは、地元観光関係者や自治体とJR六社が一体となって行う国内最大級の観光キャンペーンです。このDCが、平成二十七年の春(四月～六月)に「福が満開、福のしま。」をキャッチコピーに本県で開催されます。平成二十六年の四月から六月には、前年のプレキャンペーンが開催されますので、美しい花々やご当地グルメ、地酒などをこの機会に堪能ください。



ふくしま
デスティネーション
キャンペーンロゴ

「福島に桃源郷あり」 春の息吹を満喫・花見山公園

春は福島市が一番華や季節。その中でも、写真家の故・秋山庄太郎氏が毎年のように訪れ「福島に桃源郷あり」と称賛した里山「花見山公園」は、今では全国各地からたくさんの方々が訪れる福島市屈指の観光名所となりました。

春になると、ウメ・レンギョウ・トウカイザクラ・ボケ・ソメイヨシノ・ハナモモなどの花々が二重に咲き競い、周辺の花木農家の畑と共に山全体が淡いピンク色に染まってみえる様は、まさに「桃源郷」そのものです。天気の良い日には、市西部の吾妻連峰や安達太良連峰を望めます。春になり、吾妻小富士に降り積もった雪が解けはじめると、山肌にはうさぎの形をした残雪がみられ、市民から「吾妻の雪うさぎ」の愛称で親しまれていく景色を楽しむことができます。また、花見山の山頂に登れば、咲き誇る花々の間から福島市街地の風景が眼下に広がります。

この「花見山公園」が、実は個人所有の山であることはあまり知られていません。花見山公園二代目園主・阿部一郎氏とその父・伊勢次郎氏が、それまで営んでいた養蚕をやめ、昭和の始めに花木農家として生計を立てようと決心し、雑木林の開墾にその身を投じたのが「花見山公園」誕生の生い立ちです。

「花見山は私の人生そのもの。毎年たくさんのお客様が私と同じ気持ちで花を求めてみえるんだと思うと、自分の考えが間違っていないかと思うてうれしくなります。」と語っていた、花見山公園二代目園主・阿部一郎氏が昨年の秋に他界されました。心からご冥福をお祈りするとともに、花木農家として誰よりも花を愛し、花を通して多くの人々の心を癒してくださった阿部一郎氏へ敬意を表し、今回はその生涯を花見山の歩みとともに辿って参ります。

「ふくる」とは…「福島に来る」と「福が来る」を掛け合わせた言葉です。福島市にお越しくくださった皆さまに「福」が「来る」事を祈るとともに、福島市の魅力をたくさん知っていただきたいと願います。

編集 後記

●今や福島市の代名詞となった「花見山公園」を特集して、魅力を再発見できました。花見山は一日にしてならず! (ニックネーム：今年は団子より花K)

●花見山公園の花の1つ1つに対する一郎さんの思い、優しさを改めて知ることができました。一郎さんが愛した花見山公園をいつまでも大切にしていきたいです。(ニックネーム：福島のモモが大好きA)

●毎年の事ですが、福島は冬が長く春が短いように感じます。「春」という心が踊り華や季節、その儚ささえ愛しいと思いながら飲む地酒が私には

たまらないのです。(ニックネーム：良い人生には花と酒の幸)

●初めての編集参加にドキドキ。今年も花見山の美しい花々に会えることにドキドキ。春は私をドキドキさせてくれる季節です。(ニックネーム：ドキドキ♥晴)

●花見山公園を彩る花々に宿る阿部さんの想いを改めて感じました。凍える時期に作成したこともあり、これ程春の花見山に焦がれた冬はありませんでした。(ニックネーム：福島の四季と果物が大好きなM子)

ていきました。そのころから阿部家を訪れる人たちから山を見せて欲しいという声が次第に聞こえてくるようになります。そこで、自分たちが花で心が癒されるのと同じく、人々の心も癒されるはずとの想いから、昭和三十四年四月、一般の方に自由に花を見てもらおうと「花見山公園」が開放されました。



花見山山頂から見た福島市の様子(昭和30年頃)

一年間の養生：そして再開園
東日本大震災の後、花見山公園は一年間休園しました。花見山公園を開放しな



笑顔で花に接する故・阿部一郎氏

句を詠むのが好きであった伊勢次郎氏。一郎氏が新聞紙面上で紹介した句には、花見山への強い想いを感じ取ることができます。
今日もよし／明日も亦(また)よし／花見山
もろひとの／知恵に咲いたり／花見山／明日の希望の／種を生ませて



花木を売りに行く父・伊勢次郎氏

小特集

花見山とともに歩んだ人生

「花見山公園二代目園主」故・阿部一郎氏の生涯

養蚕農家から花木農家へ

福島周辺(信達地方)では、江戸時代から養蚕業が盛んに行われ、阿部家でも養蚕を営んでいました。一郎氏の祖父は事業家で養蚕の他にも、山で伐採した木を売ったり、十五軒ほどの長屋を持ち賃家業もしていました。大正八年に一郎氏が生まれるころまでは事業は順調でしたが、大正十年ごろの不況や金融恐慌により業績は追い込まれ、一家に大きな打撃を与えました。田畑はもとより、家までが人手に渡ってしまつたのです。幸い家には住み続けることができましたが、その日暮らしを守るために山



花見山公園二代目園主 故 阿部 一郎 氏

から花を取ってそれを売る生活が続いたといえます。そのような中であつて、何とか家の前の山林1ヘクタールを買い入れることができ、開墾を始めました。しかし、土地がやせていて野菜や果物などは育たず、仕方なしにと花を植えることになりました。これが花見山公園の第一歩になったのです。

その後、花の生育に取り組むものの、当時の福島には同業者も無く、初めての阿部家では失敗が続いたそうです。一郎氏は家業の発展を志し、昭和七年、農家の後継者を育てる信夫農学校(後の福島農蚕高、現福島明成高)に入学し



開墾当時の花見山公園山頂付近(昭和30年頃)

胸に刻まれた信農魂と開墾の日々

一郎氏が農業を営む上で支えとなった事の一つに、当時の信夫農学校の荒川 靖校長による「信農魂」という言葉があります。「信農魂」とは、「商人に商魂があるように、農民には農民魂が大切だ。どんな時でも、なにくそと頑張ることだ。努力だ。頑張ってくれ。」という教えです。「ばかにされない農業がしたい。堂々と胸を張って農業がしたい。」と思っていた一郎氏はこの言葉に感銘を受け、「生涯忘れられない言葉」として挙げています。

昭和十年の三月に信夫農学校を卒業してからの一郎氏は、一日中雑木林を耕し花を植えるための畑を作りました。当時の農業はすべて人力で行っていました。木を切って根を起こ

すという重労働を、機械を使わず行うことは容易ではありません。一日一坪、良くできても三坪程度のペースでしか耕すことができませんでした。それでも雑木山に新しい畑ができた時の喜びは大変なものだったと振り返っています。また、当時の事を「不平不満はいいませんでした。若いうちに貧乏を経験するのは良いことだと思えます。苦しみの先には必ず幸せがあります。」とも語っています。

戦争体験とさらなる決意

昭和十四年、信夫農学校を卒業してから開墾に全力を注いでいた一郎氏にも、兵役は回ってきました。現在でこそ兵役というと重く暗いイメージがありますが、教育勅語で育った一郎氏は特に抵抗を感じることはなく、当時はむしろ当たり前のこととして捉えていたそうです。戦況が悪化する中、四年近く中国での戦闘を経験した一郎氏は、昭和十八年の十二月に兵役を解除され帰還しました。「戦いの場はいかなる時でも地獄そのもの。生きて帰れたことをありがたと思う一方で、戦死した数多くの同僚とその家族に申し訳ないという、割り切れない思いであつた。」と当時の事を記しています。その

後、昭和二十年に二度目の招集がかかり、四月に入隊しましたが、終戦となり同年9月に無事に復員することができました。戦争を体験して平和であることがいかに大切かを痛感した一郎氏は、さらに農業に打ち込むことを決意します。

花見山公園の誕生

戦後は阿部家・丸となつて家の復興を目指しました。目の前の山にきれいな花が咲くことが、改めて喜びになっていきました。戦後の混沌とした時代に、暑さ寒さに耐えて咲く花々の美しさは、将来への希望を想う大きなはずみになったのです。



花見山山頂で開催されていた「園遊会」の様子(昭和30年頃)

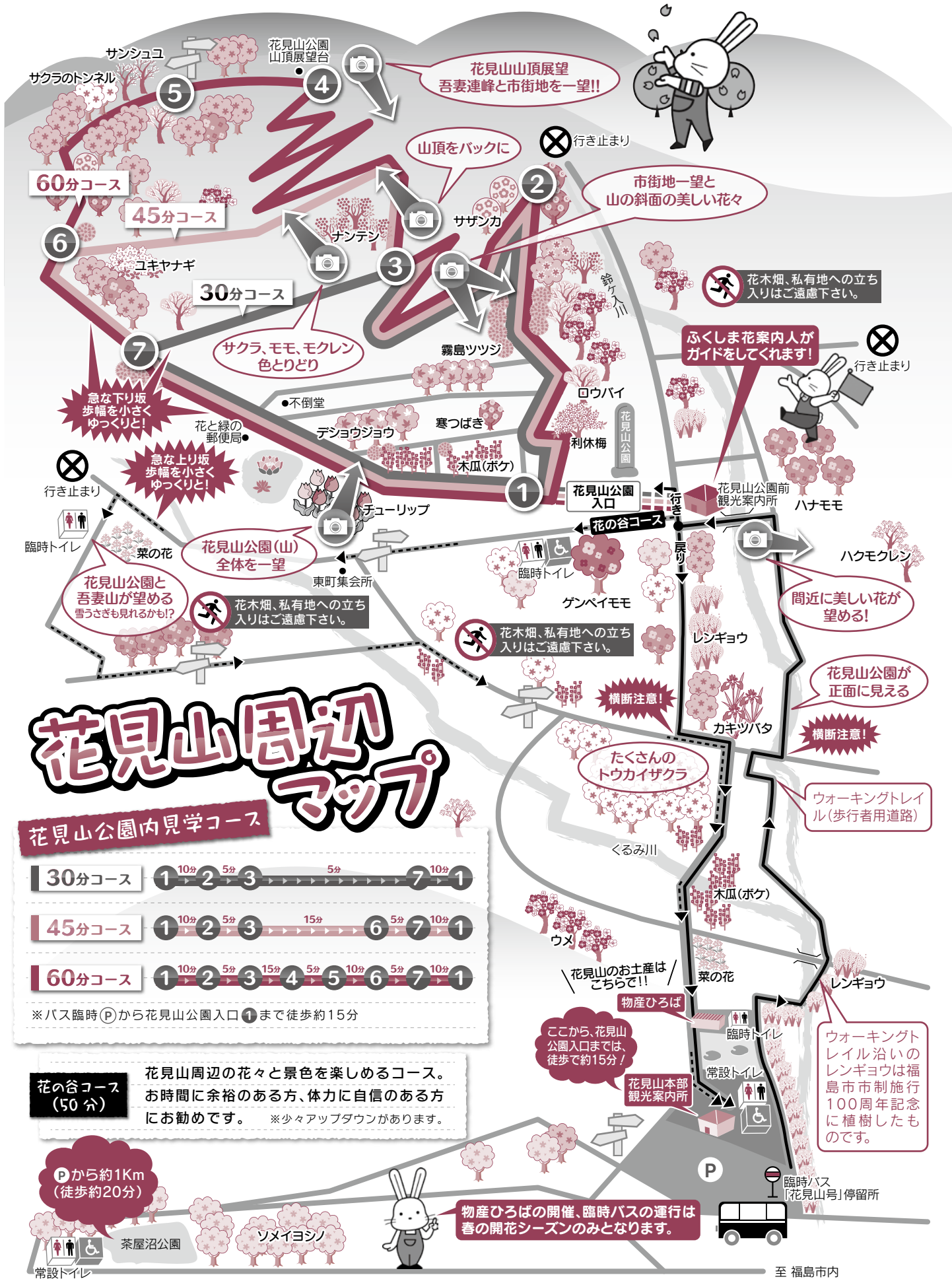


毎年多くの観光客が訪れる花見山公園

花見山公園初代園主 父・阿部伊勢次郎氏への尊敬の念

阿部一郎氏は、父・伊勢次郎氏について、「農業人としては素晴らしい先見性を持った人。ち密に企画して行動する人で、自分は到底及ばない。特別な学問を受けたわけではなく、努力と生活の中から知恵を生み出した人」と記しています。

五十年／夢にえがけし／花見山／今思い出を／しのぶうれしさ
ひとすじに／花を愛でつつ／五十年／世の安らぎを／花に求めて／
限りある／わが身をみつめ／振り返り／花見の山の／限りなき春



花案内人の全体集合写真

ふくしま花案内人とは

福島市には、花見山公園を筆頭に花の名所が数多く存在します。その花の名所で訪れたお客様をご案内し、福島の魅力をPRしているのが、ボランティアガイド「ふくしま花案内人」です。

平成十六年の春からガイド活動を開始し、現在では会員数百四十名を超える大きな団体に成長しました。

「ふくしま花案内人」の活動の中でもっとも重要かつ大規模なものは、春の花見山公園でのガイド活動です。花見山公

百花繚乱 福島の桃源郷・花見山公園の歩き方

ふくしま花案内人にたずねよう

園前観光案内所（ログハウス）と園内各所に駐在し、訪れたお客様に花の説明やビューポイントをご案内しています。ご希望の団体には、同行案内も行ってまいります（※）。年間を通して何度も花見山公園を訪れ、様々な研修を重ねている花案内人だからこそ知っている、とっておきの情報を教えてくれます。



花見山公園入口付近でのガイドの様子

シーズン中は、福島駅東口でもお客様をお迎えしています。花見山公園へのアクセスはもちろん、開花状況もご案内しています。また、福島駅発着で中心市街地を回る「まちなか周遊バス（期間限定）」に乗り、バスガイドさんならに福島を案内します。

生前のお言葉「気兼ねなく見ていってほしいよ」。その温かい心遣いと花見山公園への想いが、花案内人ひとりひとりのおもてなしの精神に繋がっているのです。

※ふくしま花案内人について、同行案内についてのお問い合わせは（社）福島市観光コンベンション協会

024-531-6432

まで。

花案内人 松崎幸子さんからメッセージ

楽しそうに活動している花案内人の姿を見たのをきっかけに、花案内人を目指そうと思いました。今年は市外の観光情報についてももっと勉強し、笑顔を絶やさずにお客さまを案内します！

春の花見山シーズン ～バスに乗って市内観光を楽しみましょう!!～

花見山と一緒に福島市内の観光も
お得に楽しみましょう♪

福島駅から花見山公園へ行こう♪
開花時期限定の便利なプランをご紹介します♪

- 「花見山公園臨時バス&飯坂電車全線1日フリー乗車券」
花見山号と飯坂電車の1日フリー券♪
発売日／平成26年4月5日(土)～4月29日(火・祝)
発売額／大人700円・小児350円
発売箇所／福島、桜水、飯坂温泉の各駅窓口
問) 福島交通鉄道部／(024)558-4611
- 「吾妻の雪うさぎ号」～花見山と雪の回廊～
平成26年4月8日(火)～4月21日(月)
毎日運行(予約制)
募集人員／40名(最少催行人員20名)
旅行代金／大人3,300円・小学生2,800円
日程／飯坂温泉駅～福島駅西口 ※土湯温泉または高湯温泉
～磐梯吾妻スカイライン ※高湯温泉または土湯温泉
～花見山～福島駅西口
※奇数日は土湯温泉先回り、偶数日は高湯温泉先回りに運行します。
問) 福島交通観光／(024)531-8950

●花見山公園臨時バス「花見山号」
期 間／平成26年4月5日(土)～4月29日(火・祝)
福島駅東口(バスのりば⑥番)⇄花見山(直行:往復)
福島駅始発午前9:00、花見山発最終午後4:30
期間中毎日運行。(所要時間約15分)
片道 大人250円・小児130円／往復 大人500円・小児250円
問) 福島交通 福島支店 (024)535-4102



■営業時間／9:30～19:00 ■休館日／火曜日
(祝日の場合は翌日) ■入館料／無料

■営業時間／10:00～18:00
(ただし、4月は休まず無休)

■休館日／火曜日
■入館料／無料

市役所9階には展望ロビーがあり、花見山や信夫山、吾妻山などの山々のほか市街地を一望できます。

■ 開放時間／【平日】 8:30～21:00
【土・日・祝】 9:00～21:00

明治20年に初めて福島で競馬が開催されました。現在では中央競馬が開催される全国10カ所の1つとして、年に3回競馬が開催されています。芝生広場やアスレチック施設など、遊具も充実していますのでお子様も楽しめる施設です。

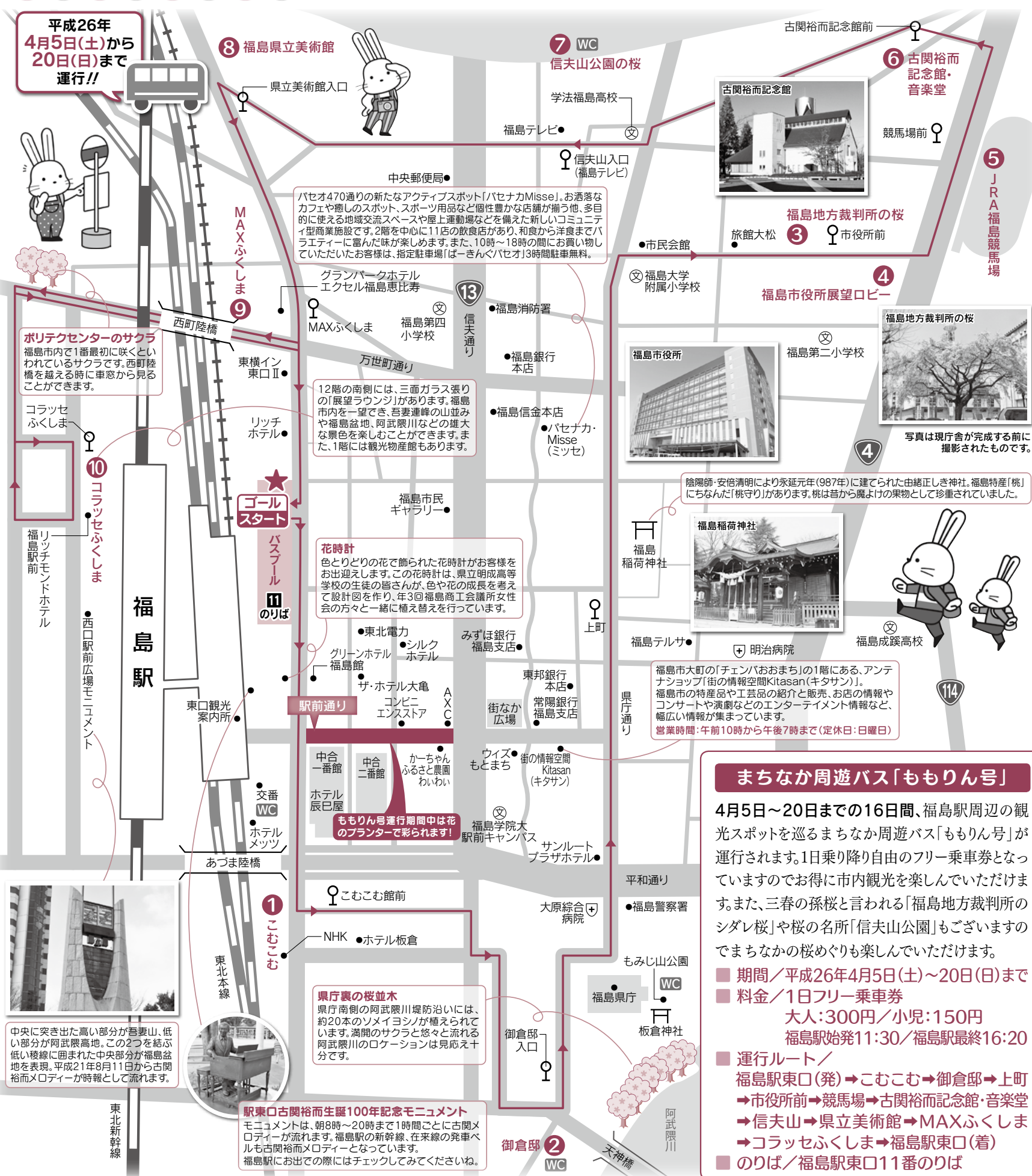
■営業時間／9:00～17:00

■入場料／100円(競馬開催期間中)

「栄冠は君に輝く」や「オリンピックマーチ」などで知られる作曲家古関裕而さんの記念館です。直筆の楽譜やレコードなどの資料が展示されています。目と耳でその功績に触れることができます。

■ 営業時間／9:00～16:30（最終入館 16:00）
■ 定休日／年末年始 ■ 入館料／無料

～春爛漫の福島市を思いっきりご堪能ください～



福島市民なら1度は訪れたことがある桜の名所「信夫山公園」。山全体に2000本といわれるソメイヨシノが、10本が公園に植えられ、周辺に花見茶屋や露お花見スポットです。行われています。
年4月4日～21日
23:00

民家風の屋根が印象的な県立美術館は、20世紀アメリカ最高の画家アンドリュー・ワイエスの作品や大正期の洋画家関根正二氏の作品を収蔵しています。また、本県出身の版画家 斎藤清氏の400点を超えるコレクションを所有していることでも有名な美術館です。

■営業時間／9:30～17:00（最終入館 16:30）

■休館日／月曜日（祝日の場合翌日）・年末年始
平成26年3月24日から4月11日まで館内消毒により臨時休館

■観覧料／常設展：一般・大学生270円、高校生以下は無料

■営業時間／10:00～21:00（AOZは9:00から）
※各店舗により営業時間は異なります。
■定休日／無休

福島県内の物産や
民・工芸品、地酒など
が一堂にそろう「福島
県観光物産館」が1階
にあります。最上階に
は展望ラウンジがあり
福島市内の景色を見ることが
できます。

■福島県観光物産館
営業時間／10:00～19:00

■展望ラウンジ／9:00～21:00

■休館日／無休

